

「サガで働く先輩たちのリアルトーク！！」を開催しました

平成27年度 学生への意識啓発事業

大学・短期大学等の学生を対象に、佐賀大学男女共同参画推進室・佐賀大学キャリアセンターとの共催で学生への意識啓発事業を開催しました。「サガで働く先輩たちのリアルトーク！！」と題し、佐賀県内の企業等で働く先輩の方々4名をパネリストに迎え、実施しました。

【パネリスト】(五十音順)

円城寺 雄介さん(佐賀県統括本部 情報・業務改革課)
大木 八重さん(株式会社ココオ 商品開発部 営業企画課)
高田 十三恵さん(アイ・ケイ・ケイ株式会社 鳥栖支店 ララチャンスベルアミー)
安西 省さん(森鉄工株式会社 技術部 設計課)

【コーディネーター】

内田 信子さん(元株式会社サガテレビ報道制作局担当部長)

最初にコーディネーターの内田さんは、「今日は、話しを一方的に聞くだけでなく、学生みなさんにワークを交え一緒に考えてもらう機会にしたい。そしてこの機会を活かして自分の人生、自分の職業を考えていってほしいと思います。」と話され、講座の進め方について説明いただきました。

- (1)個人ワーク 「30歳の自分はどうしてる？」を考える
- (2)パネリスト自己紹介
- (3)グループワーク(1)で考えたことをもとに、パネリストの方への質問をグループで考える。
- (4)パネリストから回答

円城寺さんは、大学(経済学部)を卒業後、佐賀県庁に入庁され、道路・河川整備、金融監督、人材育成、救急医療など様々な部署を経験されてきたそうです。毎回一緒に働く仲間も変わり、東京事務所や海外事務所などへの転勤もあるので、佐賀にいながら色々なキャリアを積んだり、広い世界を見れるという点は魅力ではないかと話されました。

救急医療を担当している時には、全国で初めて県内の全救急車にi-padを配備し、新たな救急医療情報システムの構築を図り、救急搬送時間の短縮化に成功されたそうです。また、ドクターヘリの導入なども行い、現在は、情報・業務改革課でIT全般を使ったり、行政の持っている様々な情報をうまく公開することで、よりよい行政にするための仕事をしているそうです。公務員の仕事はつまらない印象があるかもしれませんが、自分でいろんなことに挑戦することでいくらでも面白い仕事にできるとおっしゃっていました。



大木さんは、大学(農学部応用生物化学科)を卒業後、東京の製菓メーカーに入社し、開発技術研究所に配属され、スナック菓子の開発や市場調査などの仕事に携わったそうです。その後、社内結婚をし、第1子を出産、研究所内初の育児休業を取得したそうです。しかし、大木さんの育児休業中に、同じ会社で働く夫の転勤が決まり、家族で大阪へ引っ越すこととなり、大木さんは復職できない状況になり、退社を余儀なくされたそうです。しばらく専業主婦となり第2子を出産し、その後は派遣社員としてオーラルケアなどの製品を取り扱うメーカーに勤務し、製品の分析やパッケージ開発の仕事に携わったそうです。現在は吉野ヶ里町にある、みつせ鶏など赤鶏を専門に一貫生産を行っている(株)ココオの商品開発部でリーダーとして勤務され、新商品の開発や、パッケージデザイン、情報誌の作成など幅広い仕事を行い、シングルマザーとしても忙しい日々を送られているようです。色々な仕事を経験したが、その経験は無駄ではなく、今に活かされていると話されていました。

高田さんは、大学(経済学部)を卒業後、アイ・ケイ・ケイ(株)に就職され、現在は鳥栖支店のララチャンスベルアミーという結婚式場でウエディングプロデューサーをされています。アイ・ケイ・ケイ(株)は、伊万里市に本社があり、県内では2番目に東証一部上場を果たした企業です。この会社を選んだのは、人と関わることが好きで、人を幸せにする会社に入りたいと思ったからだそうです。ウエディングプロデューサーという仕事は、ブライダルフェアなどで式場に来場された方を接客・案内し、式場の魅力を伝えて成約に結びつける仕事で、とてもやりがいがあり、何より仕事を楽しくてたまらないと話されていました。

また、大学在学中には中国へ1年間留学をし、これはとてもよい経験だったとおっしゃっていました。



安西さんは、大学(理工学部機械システム工学科)卒業後、県内の企業に就職し、社内インフラ整備を担当されていたそうです。それから3年半くらい経ったときに、大学時代のスキルを活かせる機械系の仕事はないかと思い、リクルートエージェントというサービスを使って鹿島市にある森鉄工(株)に転職をされたそうです。



現在は、主に機械の設計をされているそうですが、設計だけでなく取引先との商談なども行ったりしているそうです。佐賀の企業ですが、取引先はほぼ海外で、よく海外出張に行かれているとのこと。また、国内の大手自動車メーカーとの取引もあり、佐賀にいながらグローバルな仕事に携わっていらっしゃるそうです。自分のやりたい仕事ができおり、いい職場に巡り会えたとおっしゃっていました。

パネリストの方々の自己紹介のあと、参加した学生の皆さんは、グループワークでパネリストの方への質問を付箋紙に書き出しました。

《質問と回答の一部》

Q「仕事でつらいと思ったときや辞めたいと思ったときは、どう乗り越えていますか？」

A)安西さん「早く帰ったり、趣味に時間を使ってリフレッシュします」

A)大木さん「この一山を超えれば、また楽になれる！という感じで打ち向かい、気持ちを客観的に持っていきます。」

Q「転職で不安なことはなかったですか？」

A)安西さん「不安はありましたが、どの企業に勤めたところで自分がしっかりしていないと生きていけないので、やるしかないと思い、決めました。」

A)大木さん「人間関係が一番不安でした。でも、それさえクリアできれば仕事はどんなつらい時でも乗り越えなきゃいけないし、乗り越えられるもの。不安に思うより、自分自身の人生を楽しくしようというぐらいの勢いで過ごしていたら、問題はクリアできると思います。」

Q「人生の大半を佐賀で(過ごして)いいのか？」

A)円城寺さん「大切なことは場所ではなく皆さんが人生でなにをやりたいかということ。やりたいことがあれば、その行きたいところに行けばいい話で、どこかにこだわる必要はないと思います。もう一つ、私がいろんなところを飛び回っていて思うことは、佐賀は仕事をするうえでも生活をするうえでも意外にすごくいい環境にある。自分たちの足元の良さを気付かないまま、佐賀がつまらないと思いつまらなれているのは非常にもったいないと思います。」

Q「育休や産休に対する周囲の意識はどうですか？とりやすいですか？とりづらいですか？」

A)高田さん「私の会社はサービス業なので産休や育休、早く帰ることなどが難しいと思われがちですが、女性が働きやすい環境じゃないと成り立たない会社なので、今やっと土台が出来てきた状況です。ほとんどのの方が子どもができたら産休育休をとって復帰をする。そして復帰をしたときは、9:00～16:00勤務にするなど、家庭環境によって勤務体制などを変えています。」

A)安西さん「中小企業なのでどちらかというと、後手後手に回る側だと思います。なので、行政がある程度音頭をとって強引に進めてくれないと進まないんじゃないかなと思います。」



最後に、コーディネーターの内田さんは「パネリストの皆さん4人も、とてもいいお顔をしていて、今の仕事に邁進し、満足し、もっと向上していきたいという気持ちが、より皆さんを輝かせてるなと思いました。学生のみなさんは、できれば自分がやりたいと思う仕事、興味のある仕事についてください。そしてその仕事に誇りを持っていけるように、その仕事を深めていく、邁進していくことが必要だと思います。今、皆さんは、人生の大きな岐路に立っていますが、ここにいる先輩方や先生もみんな、皆さんのサポーターであり応援者です。なにか、道に迷ったとき、疑問に思ったときには先生や私たちに声をかけてください。」と締めくくり、終了しました。

～参加した学生の感想(一部抜粋)～

- ・それぞれ異なるパネリストの意見が聞けたので良かった。グループワークがあったので、多様で深みのある考え方ができた。
- ・それぞれお話してくださった方は、自分の仕事が好きで毎日大変でも楽しいんだろうなと伝わってきました。職活の上で自分が考えるべきことが分かった気がします。



主催 佐賀県立男女共同参画センター・佐賀大学男女共同参画推進室・佐賀大学キャリアセンター
協力 九州龍谷短期大学・佐賀女子短期大学キャリア支援センター・西九州大学・放送大学佐賀学習センター

(開催日:平成27年12月9日 会場:佐賀大学 本庄キャンパス 大学会館 2階 多目的ホール)

[<<戻る](#)

[↑このページの上へ](#)



[🚗 アクセス・交通機関のご案内 ▶](#)

[✉ お問い合わせ/ご意見・ご要望 ▶](#)

アバッセ

佐賀県立男女共同参画センター・佐賀県立生涯学習センター

〒840-0815

佐賀県佐賀市天神三丁目2-11(どんどんの森内)

TEL:0952-26-0011 FAX:0952-25-5591

【指定管理者】[公益財団法人 佐賀県女性と生涯学習財団](#)

Copyright (C) 2011 Avance All rights reserved

開館時間

火曜～土曜日:8時30分～22時00分

日曜・祝日:8時30分～17時00分

(ホールは22時00分まで)

休館日

毎週月曜日(祝日も含む)

12月29日から翌年1月3日まで